

2020年3月期 決算
決算説明会

2020年5月15日

化学で答を出す。

株式会社トクヤマ



2020年3月期決算のポイント

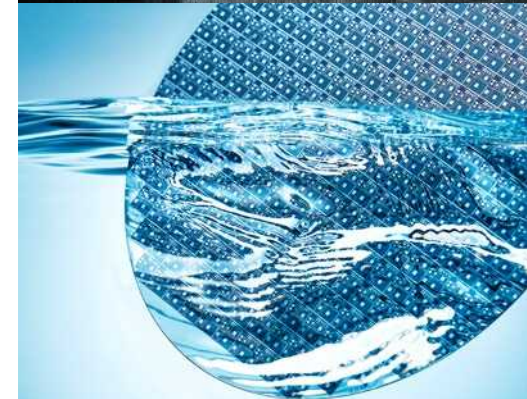
- 第4四半期の新型コロナウイルス感染症の影響は軽微だったものの、半導体関連を含む主力製品の販売数量が計画未達で、通期見通しを下回る
- 2021年3月期はコロナの影響もあり、中期経営計画最終年度の目標を下回る見通し
- ICT、ヘルスケア分野の成長戦略を着実に実行

CONTENTS

- ① 2020年3月期 決算
- ② 2021年3月期 業績予想
- ③ 中期経営計画の進捗
- ④ 補足資料

① 2020年3月期 決算

1. 決算概要
2. セグメント別売上高／営業利益
3. 営業利益増減分析



① 2020年3月期 決算

1. 決算概要

(億円)

	2019年3月期	2020年3月期	増 減		主要な変動要因
			金額	%	
売上高	3,246	3,160	△85	△3	主力製品を中心に販売が軟調に推移
営業利益	352	342	△9	△3	主力製品を中心に販売が軟調に推移
経常利益	334	328	△5	△2	営業利益の減少
親会社株主に 帰属する 当期純利益	342	199	△143	△42	特別損益の悪化
1株当たり 当期純利益(円)	493.26	287.05	-	-	-
為替(円/\$)	111	109	-	-	-
国産ナフサ価格 (円/kl)	49,500	42,700	-	-	-

① 2020年3月期 決算

1. 決算概要

(億円)

	2019年 3月末	2020年3月末	増 減	主要な変動要因
総資産	3,796	3,834	+38	現金及び預金の増加
自己資本	1,527	1,688	+160	親会社株主に帰属する 当期純利益の積み上げ
自己資本比率	40.2%	44.0%	+3.8ポイント	-
有利子負債	1,289	1,163	△126	長期借入金の減少
D/Eレシオ	0.84	0.69	△0.16	-
ネットD/Eレシオ*	0.40	0.21	△0.19	-
1株当たり純資産(円)	2,199.83	2,431.21	-	-

*ネットD/Eレシオ: (有利子負債－現預金・現金同等物・金銭信託) / 自己資本

2. セグメント別売上高／営業利益 (前 期 比)

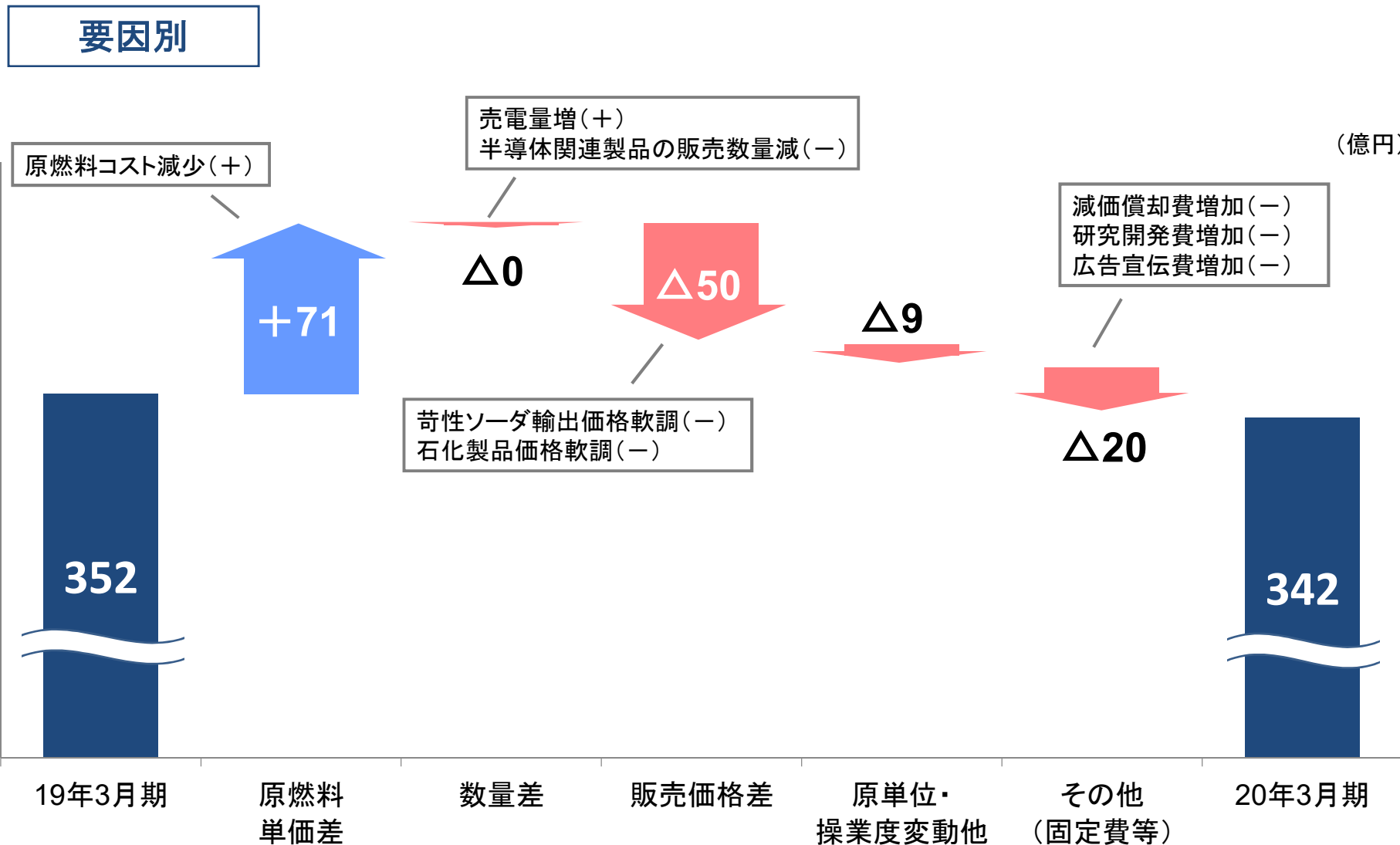
(億円)

	2019年3月期実績		2020年3月期実績		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	983	168	937	153	△46	△5	△14	△9
特殊品	596	99	544	70	△52	△9	△28	△29
セメント	923	32	872	38	△50	△5	+6	+20
ライフアメニティー	552	32	563	28	+10	+2	△3	△11
その他	613	43	652	69	+38	+6	+25	+60
計	3,670	375	3,570	360	△100	△3	△14	△4
セグメント間消去・ 全社費用	△424	△23	△409	△18	+14	-	+4	-
連結決算	3,246	352	3,160	342	△85	△3	△9	△3

(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

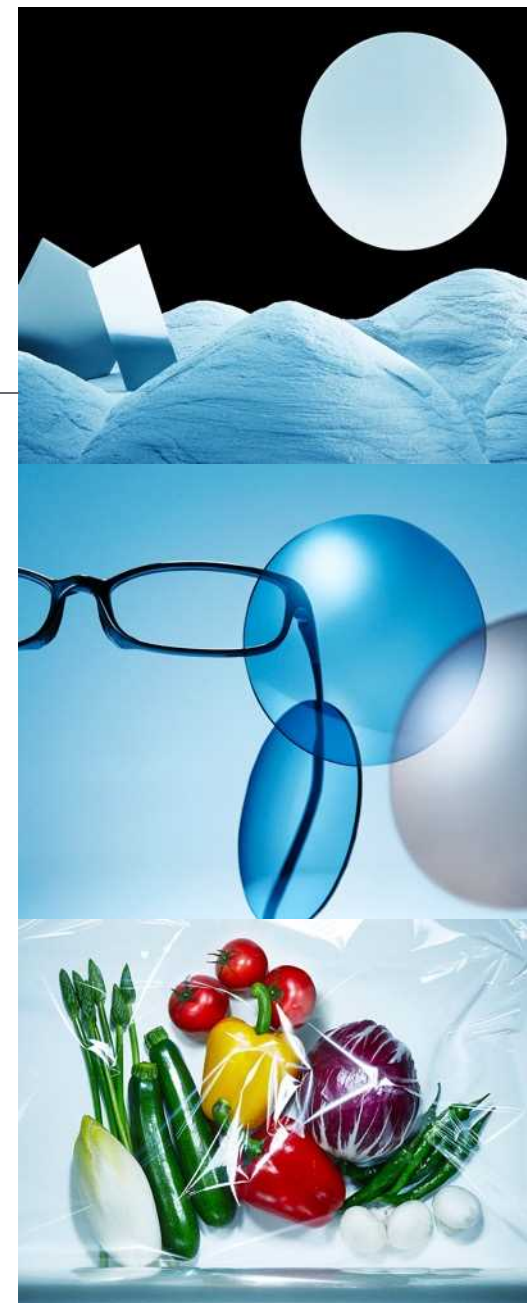
* 当期・前年同期ともに報告セグメントの変更を反映した数値を記載

3. 営業利益増減分析 (前期比)



② 2021年3月期 業績予想

1. 新型コロナウイルス感染症の影響について
2. 業績予想
3. セグメント別業績予想
4. 営業利益増減分析
5. 投資計画



1. 新型コロナウイルス感染症の影響について

- 前提条件

- 1Qは影響が継続、2Qに改善に向かい、3Q以降からは影響なし

- セグメント別影響

- 【化成品】 インドのロックダウンによる塩ビの輸入停止や、自動車生産減により石化製品の販売数量減など、建設・製紙・自動車等で幅広い影響を想定

- 【特殊品】 ユーザーの在庫積み増しによる需要増はあるものの、先行きに関しては反動による需要減など注意が必要

- 【セメント】 建設工事中断、作業所閉所などにより国内外のセメント販売数量減

- 【ライフアメニティー】 欧米のロックダウンにより、歯科器材の販売数量など欧米向け輸出数量減

2. 業績予想

(億円)

	2020年3月期 実績	2021年3月期 予想	増 減		主要な変動要因
			金額	%	
売上高	3,160	3,100	△60	△2	主要製品の販売数量減少
営業利益	342	280	△62	△18	販売数量の減少 固定費の増加
経常利益	328	280	△48	△15	営業利益の減少
親会社株主に帰属する 当期純利益	199	220	+20	+10	特別損益の改善
1株当たり 当期純利益(円)	287.05	316.75	-		-
為替(円/\$)	109	110	-		-
国産ナフサ価格 (円/kl)	42,700	43,000	-		-

② 2021年3月期 業績予想

3. セグメント別業績予想

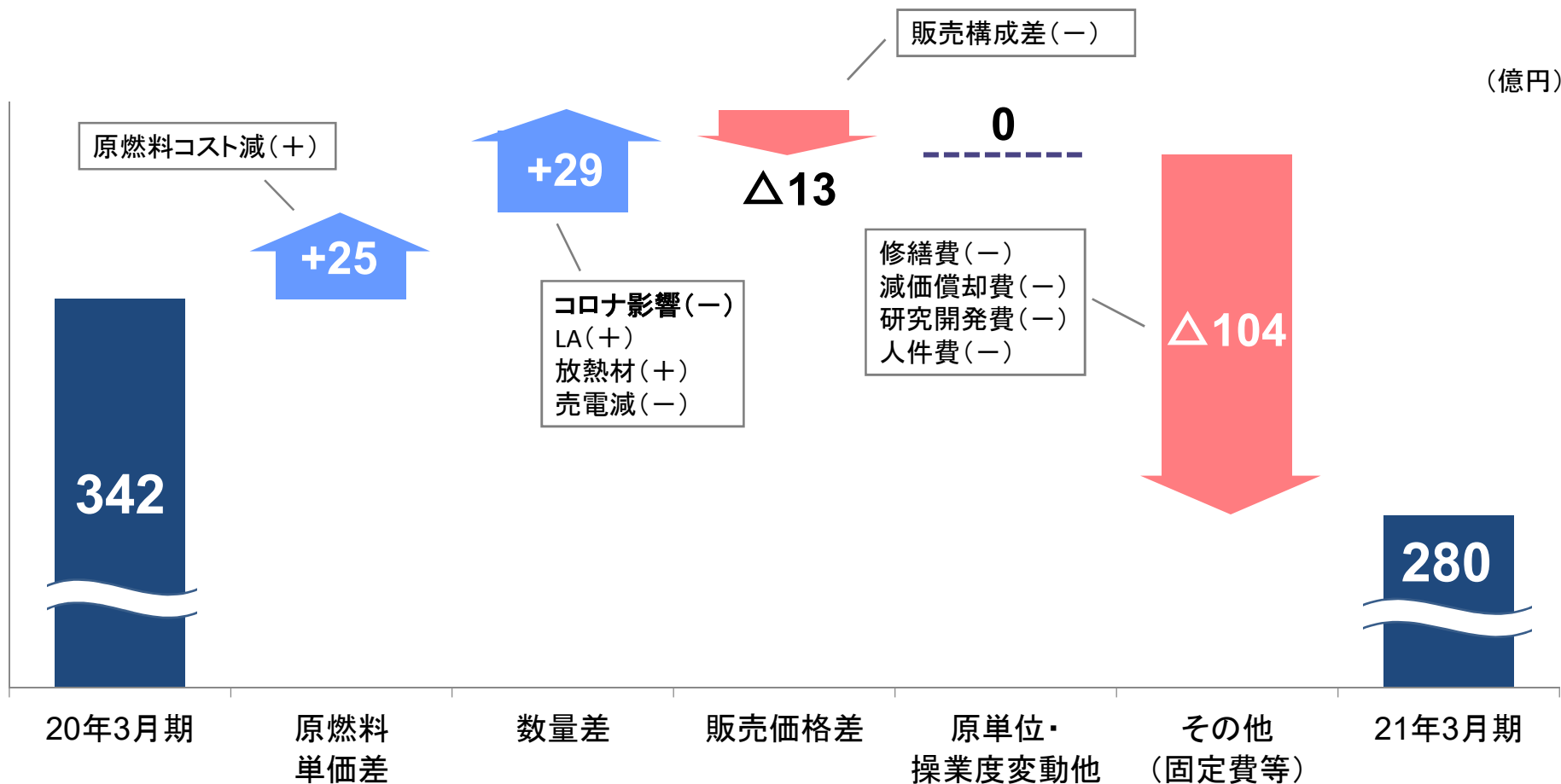
(億円)

	2020年3月期実績		2021年3月期予想		増減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	937	153	870	130	△67	△7	△23	△15
特殊品	544	70	610	75	+65	+12	+4	+6
セメント	872	38	860	35	△12	△2	△3	△9
ライフアメニティー	563	28	580	30	+16	+3	+1	+4
その他	652	69	480	40	△172	△26	△29	△42
計	3,570	360	3,400	310	△170	△5	△50	△14
セグメント間 消去・全社費用	△409	△18	△300	△30	+109	-	△11	-
連結決算	3,160	342	3,100	280	△60	△2	△62	△18

(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

4. 営業利益増減分析 (対当期比)

要因別



5. 投資計画

連 結

(億円)

	2020年3月期 実績	2021年3月期 予想	増 減
設備投資額	237	327	+89
減価償却費	161	184	+23
研究開発費	91	113	+21

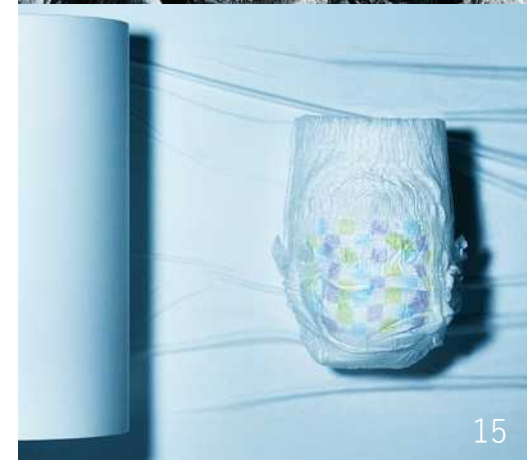
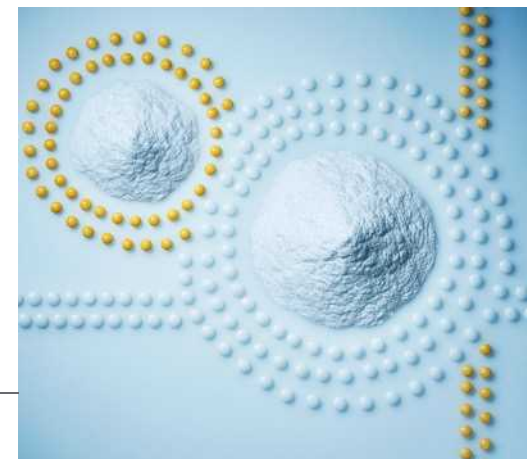
• 主な投資案件

	2020年3月期	2021年3月期
	窒化アルミ粉末増産	半導体関連製品増産・品質向上
	TMAH増強	ヘルスケア関連製品増産
	(徳山化工)半導体用薬液出荷設備	新規放熱材開発
	港湾インフラ整備	港湾インフラ整備

※ 将来の需要回復を見据え、基本的な投資計画の変更は行わないものの、製品の需要動向を見ながら投資スケジュールなど臨機応変に対応

③ 中期経営計画の進捗

1. 目標数値の進捗
2. 重点課題の成果
3. 投資計画の進捗
4. 伝統事業の取り組み
5. 配当



③ 中期経営計画の進捗

1. 目標数値の進捗

		2020年度 目標値	2015年度	2019年度	2020年度 見込み	進捗評価
売上高		3,350億円	3,071億円	3,160億円	3,100億円	固定費増加により目標未達
営業利益		360億円	230億円	342億円	280億円	
ROA		10%	5.7%	9.0%	-	総資産回転率の改善が進まず 目標未達
	売上高 営業利益率	10%	7.5%	10.8%	9.0%	
	総資産回転率	1.0回転	0.77回転	0.83回転	-	
財務指標	CCC	55日	69日	64日	-	目標未達
	D/Eレシオ	1倍	4.7倍	0.7倍	-	目標達成
	為替(¥/US\$)	110	120	109	110	
	国産ナフサ価格(¥/kl)	58,000	42,800	42,700	43,000	

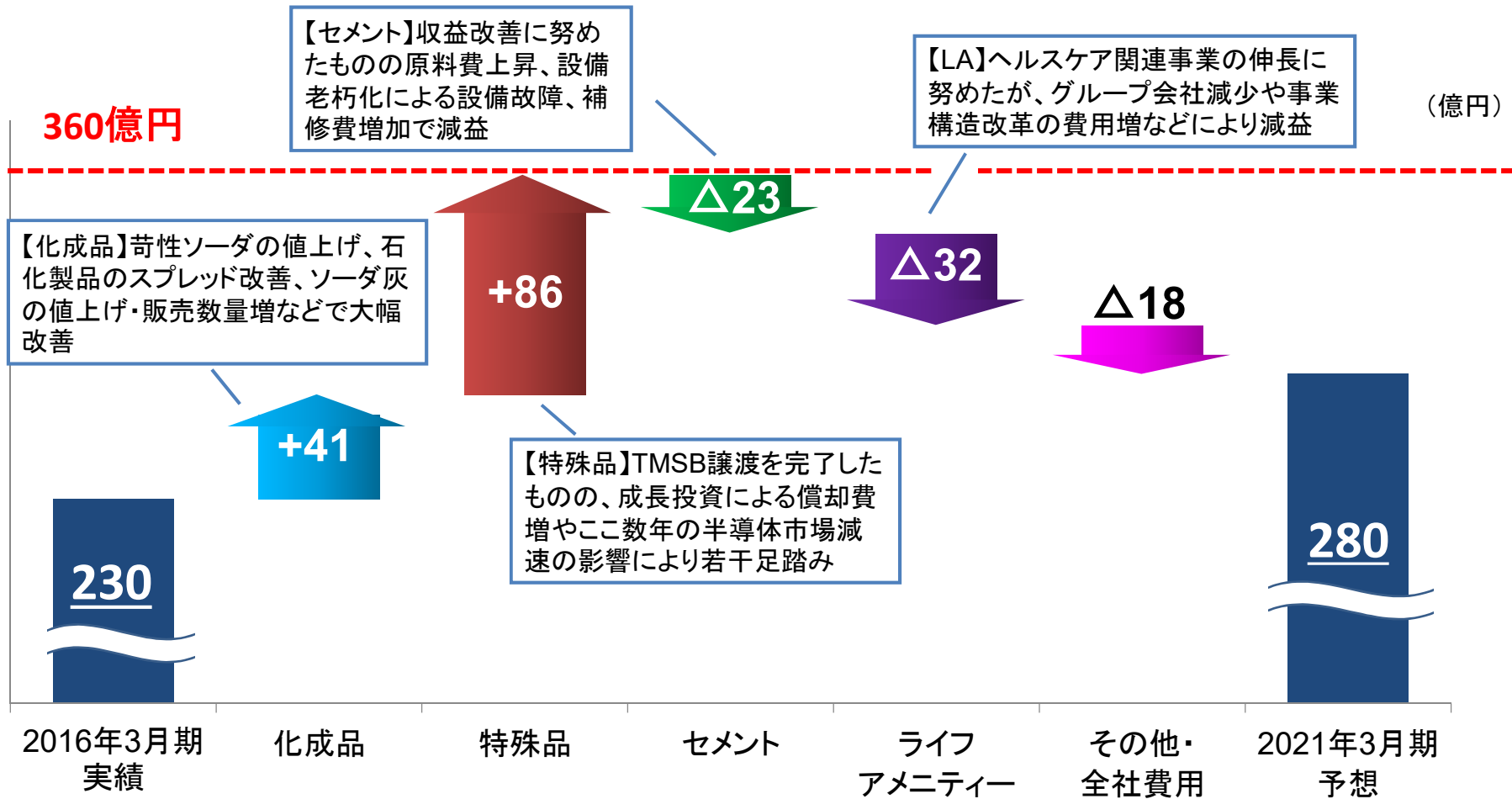
注: CCC(キャッシュコンバージョンサイクル): 売掛債権回転日数 + 棚卸資産回転日数 - 買入債務回転日数、

ROA: 営業利益/総資産で算出

③ 中期経営計画の進捗

1. 目標数値の進捗

セグメント別営業利益増減

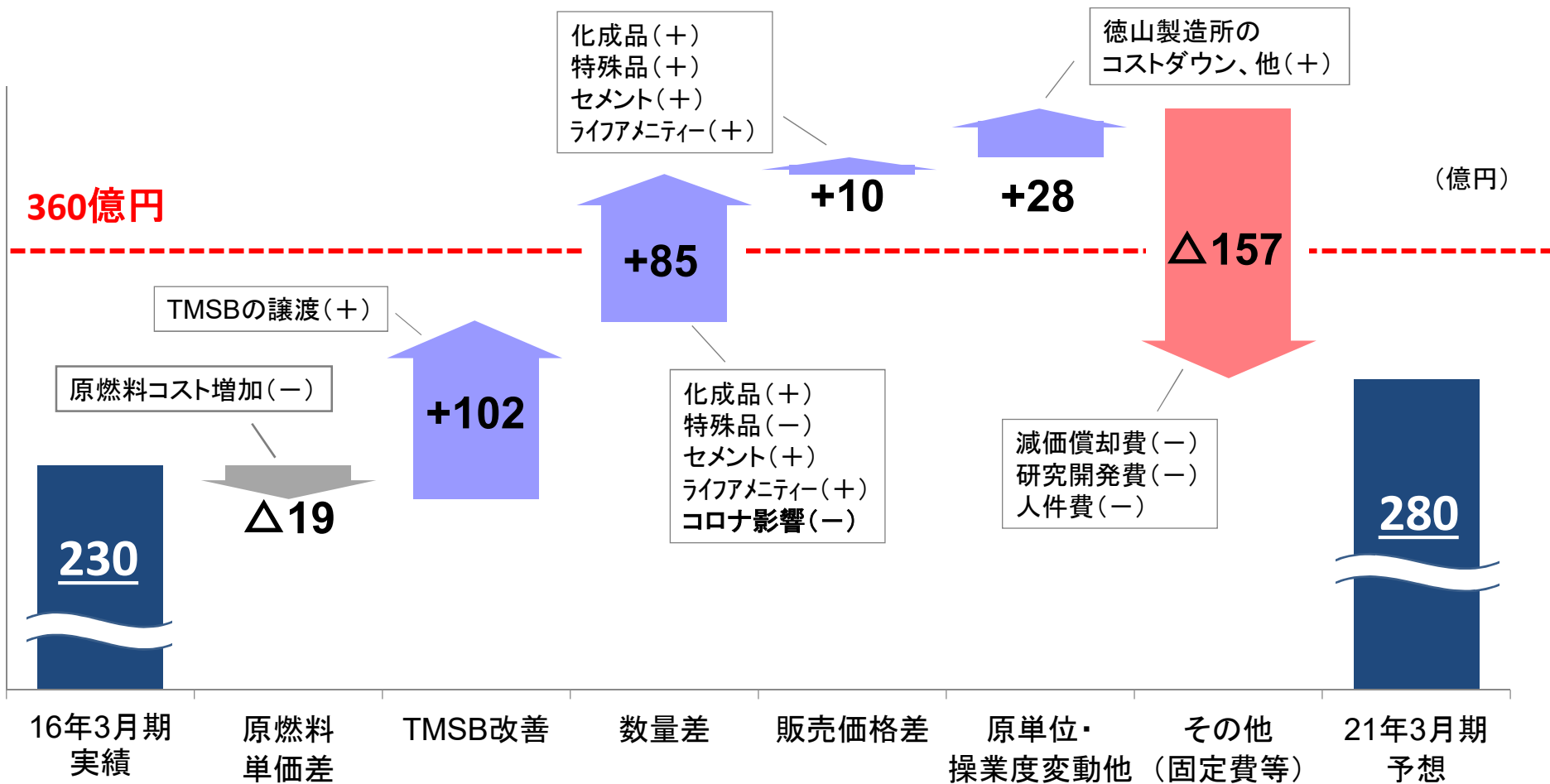


*TMSB: トクヤママレーシア

③ 中期経営計画の進捗

1. 目標数値の進捗

要因別営業利益増減



*TMSB: トクヤママレーシア

2. 重点課題の成果

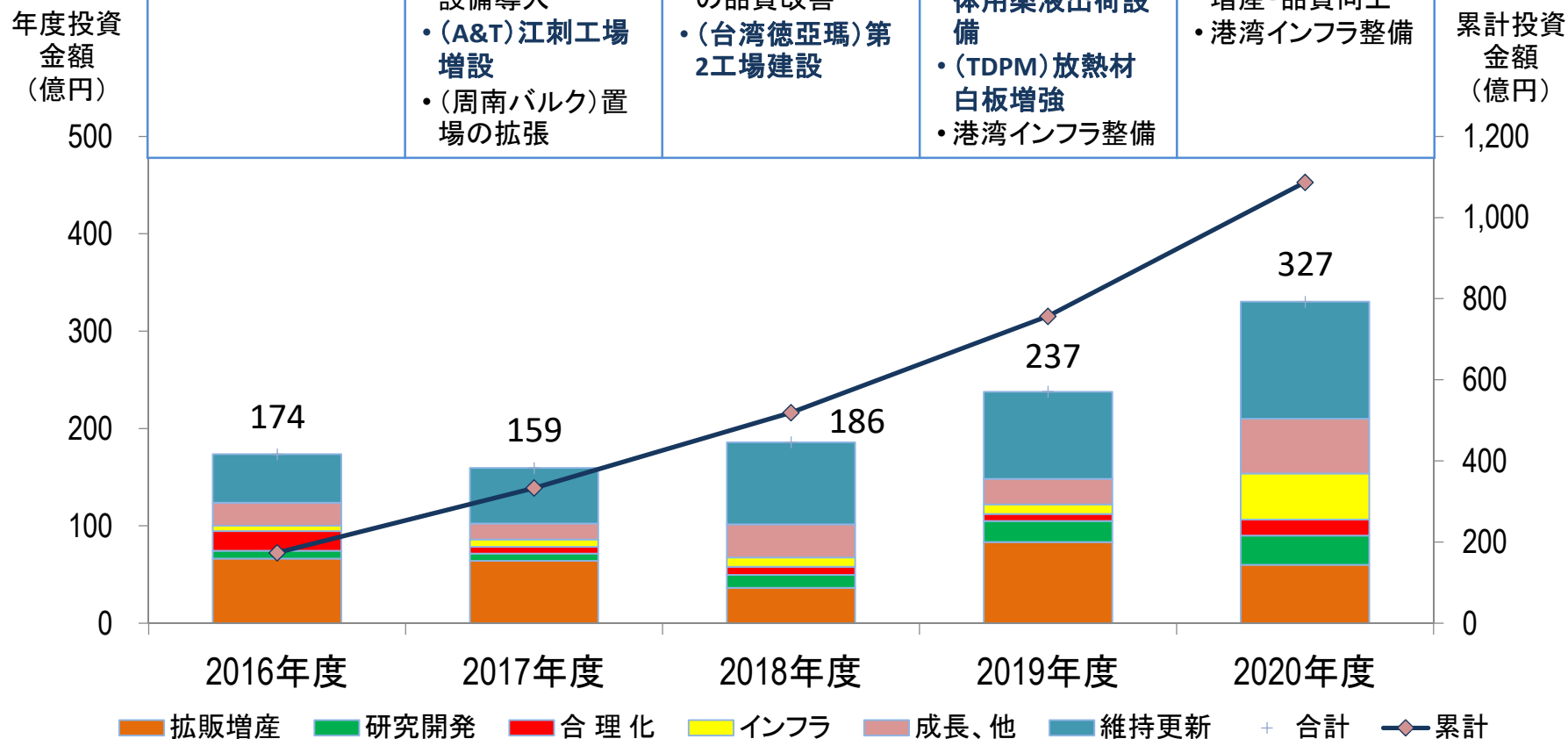
	2019年度の成果	中期経営計画の進捗
組織風土の変革	<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合人事制度の改定 ■ 社外人材の積極登用 ■ 働き方改革推進 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 管理職、シニア社員、一般社員の全ての人事制度の改定を完了。これからは、働き方や価値観が多様化する中での社員の更なるやる気向上、能力開発を実現する運用をめざす
事業戦略の再構築	<ul style="list-style-type: none"> ■ ヘルスケア関連事業展開 ■ IoT、AI活用による業務効率化、プラント運営効率化 ■ 環境関連事業(水素活用、水処理、CO₂関連)の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ICT及びヘルスケア関連事業の拡大の布石が打たれ、次期中計で成長を更に加速 ■ この中計で着手したCO₂排出量削減を中心とする環境問題解決の取り組みを新規事業へと繋げる
グループ経営の強化	<ul style="list-style-type: none"> ■ エクセルシャノンの資本提携 ■ 物流関連グループ会社間の連携強化による物流の効率化、費用削減 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 懸案の課題であった樹脂サツシ事業再構築の他、機能分担グループ会社の再編などを実行
財務体質改善	<ul style="list-style-type: none"> ■ A格復帰 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高い収益力を背景に、計画を上回る財務再建の進捗

③ 中期経営計画の進捗

3. 投資計画の進捗

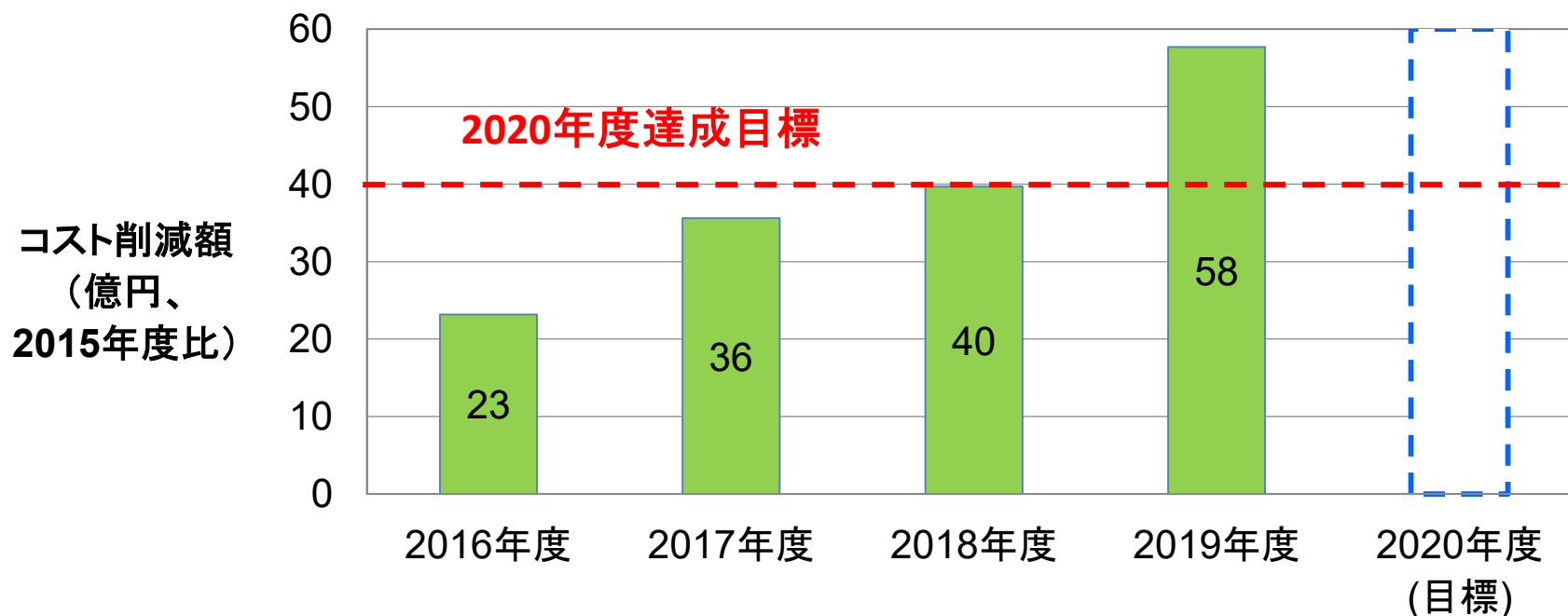
主な投資案件

<ul style="list-style-type: none"> ・(サン・トックス) フィルム最新鋭設備導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・窒化アルミ粉末増強 ・(サン・トックス) フィルム最新鋭設備導入 ・(A&T)江刺工場増設 ・(周南バルク)置場の拡張 	<ul style="list-style-type: none"> ・窒化アルミ粉末・顆粒増強 ・TMAH増強 ・半導体関連材料の品質改善 ・(台湾徳亞瑪)第2工場建設 	<ul style="list-style-type: none"> ・窒化アルミ粉末増強 ・TMAH増強 ・(徳山化工)半導体用薬液出荷設備 ・(TDPM)放熱材白板増強 ・港湾インフラ整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規放熱材開発増産 ・ヘルスケア関連増産 ・半導体関連製品増産・品質向上 ・港湾インフラ整備
--	---	---	---	--



4. 伝統事業の取り組み

- 2019年度のコスト削減額は、2018年度を上回る実績で、中期経営計画で設定する2020年度目標を大幅に上回る結果
- 2020年度も引き続きコスト削減に努める。



5. 配当

- 2020年3月期の期末配当については、予定通り35円の配当を実施
- 2021年3月期については、中間配当は35円の配当を予定しているが、期末配当は新型コロナウイルス感染症拡大の不透明感が払拭できないため現時点では未定

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
中間配当金（円）	0.0	0.0	0.0	10.0	25.0	35.0	(35.0)
期末配当金（円）	0.0	0.0	0.0	20.0	25.0	35.0	—
配当性向（%）	—	—	—	11.5	10.1	24.4	—

(注1) 2017年10月1日付で普通株式5株を1株に併合いたしました。金額の比較のため、上表では2013年度の配当金から併合を反映した金額としています。

(注2) 2014～2016年度の配当性向は、当期純損失であるため記載しておりません。

(注3) () 内の数値は、予想値です。

(注4) 2017年度期末配当金には100周年記念配10円を含みます。

TOKUYAMA



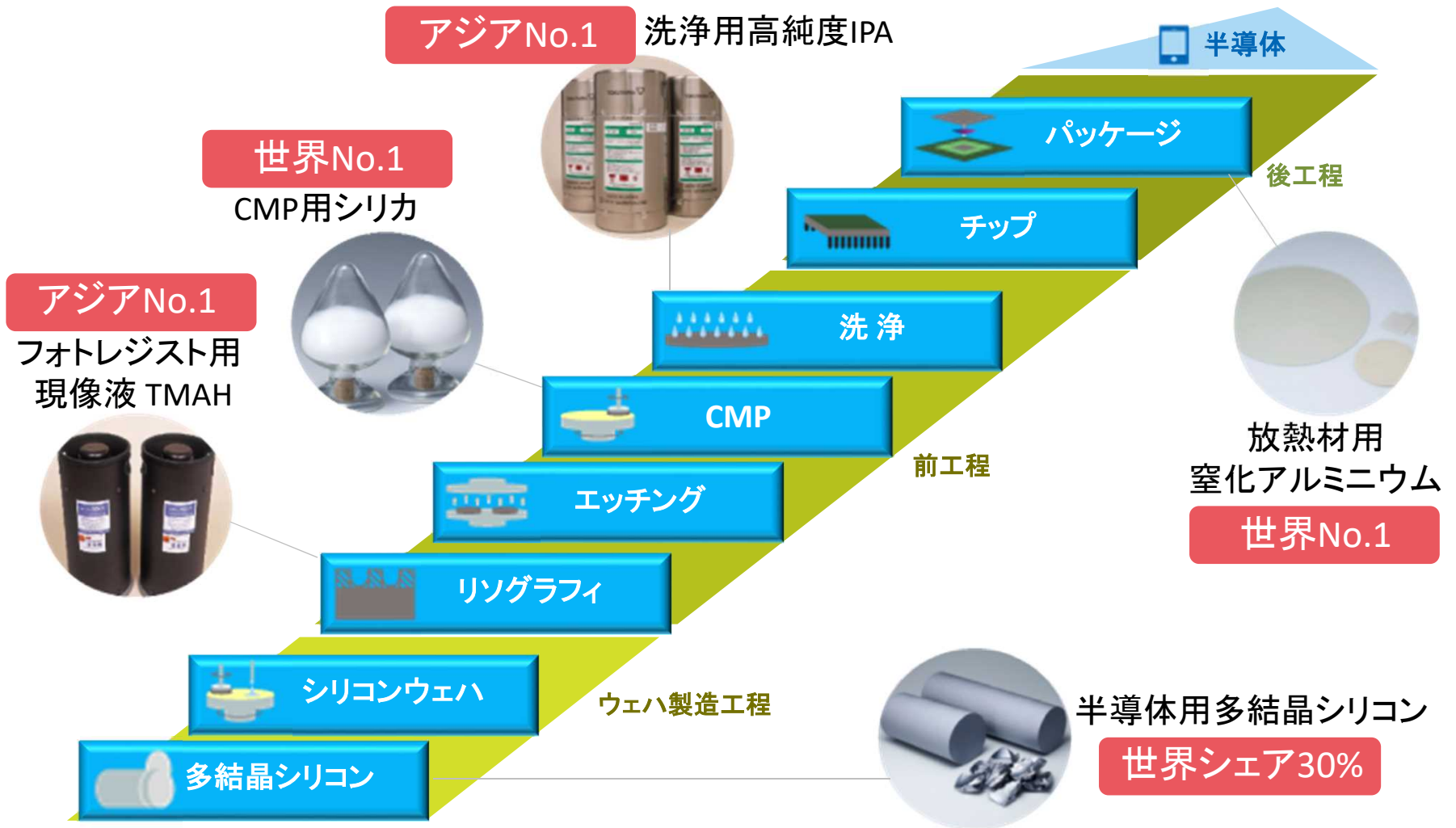
4 補足資料

1. 成長事業の取り組み
2. 部門別の状況
3. 連結財務諸表（要約）
4. 有利子負債削減
5. 営業外損益・特別損益・金融収支
6. 業績推移
7. 営業利益増減分析
8. 設備投資額・減価償却費推移
9. 有利子負債残高推移
10. フリー・キャッシュフロー推移



1. 成長事業の取り組み

ICT関連製品



4 補足資料

1. 成長事業の取り組み

ヘルスケア関連製品

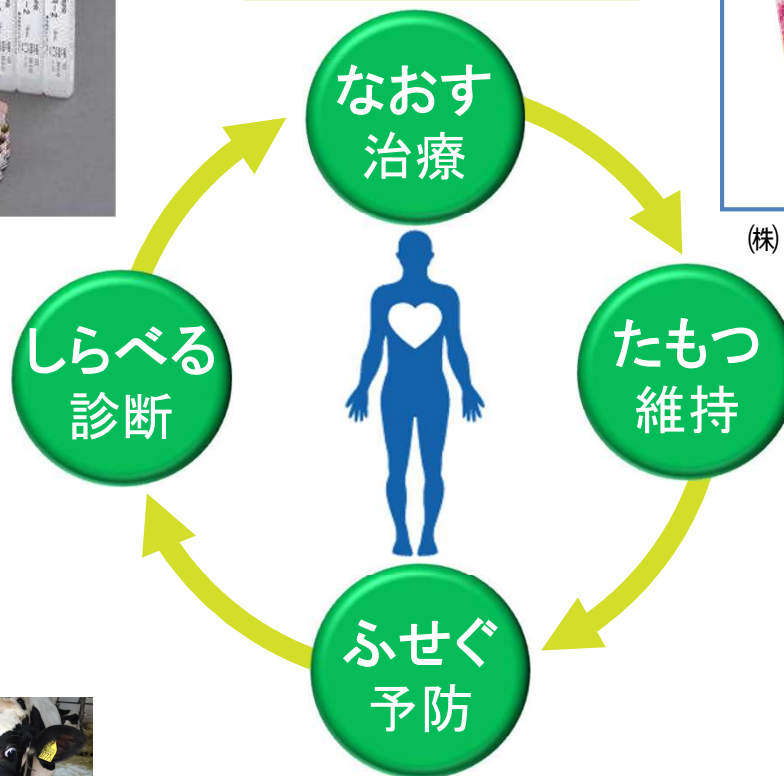


- 歯科器材
- 医薬品原薬・中間体

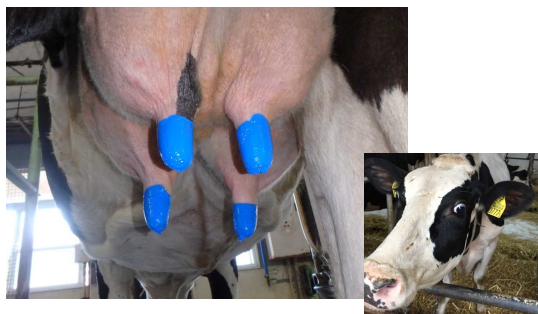


(株)トクヤマデンタル「オムニクロマ」
(歯科充填用コンポジットレジン)

- 医療診断システム
- 臨床検査試薬
- 動物医療周辺材料



- OPPフィルム (食品包装材)
- 微多孔質フィルム (紙おむつ材料)



- フォトクロミック材料
- 乳牛の乳頭保護材
- サプリメント



4 補足資料

1. 成長事業の取り組み

現状での取り組み

成長に向けた施策

	現状での取り組み	成長に向けた施策
<p>半導体向け 多結晶シリコン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 品質向上投資 	<p>さらなる品質向上による 他社製品との差別化</p>
<p>電子工業用 高純度薬液 (TMAH、IPA)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 台湾第2工場建設による供給体制の強化 (‘19年2月出荷開始) ■ 生産能力増強(TMAH) ‘20年4月 50%増 ■ 中国本土での供給拠点 	<p>生産能力増強、供給体制整備を通じて幅広い顧客獲得による事業拡大</p>
<p>放熱材</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生産能力増強 ‘20年4月 600トン/年→840トン/年 ■ 白板製造能力増強 ‘20年中頃 20%増 	<p>新製品を足場に北米・欧州市場でのシェア向上、事業拡大</p>
<p>歯科器材</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大型新製品(コンポジットレジン)を北米に続いて欧州で本格展開 	<p>グローバル市場でシェア拡大</p>
<p>メガネ関連材料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 顧客との連携を活かして販売拡大 ■ 特有技術の他分野への展開 	<p>グローバル市場でシェア拡大</p>

④ 補足資料

2. 部門別の状況（化成品セグメント）

施策

- 電解事業収益最大化
- 物流インフラ整備・ロジスティック強化
- SDGs推進のための水素ビジネス、省エネ対策

2020年3月期実績

苛性ソーダ

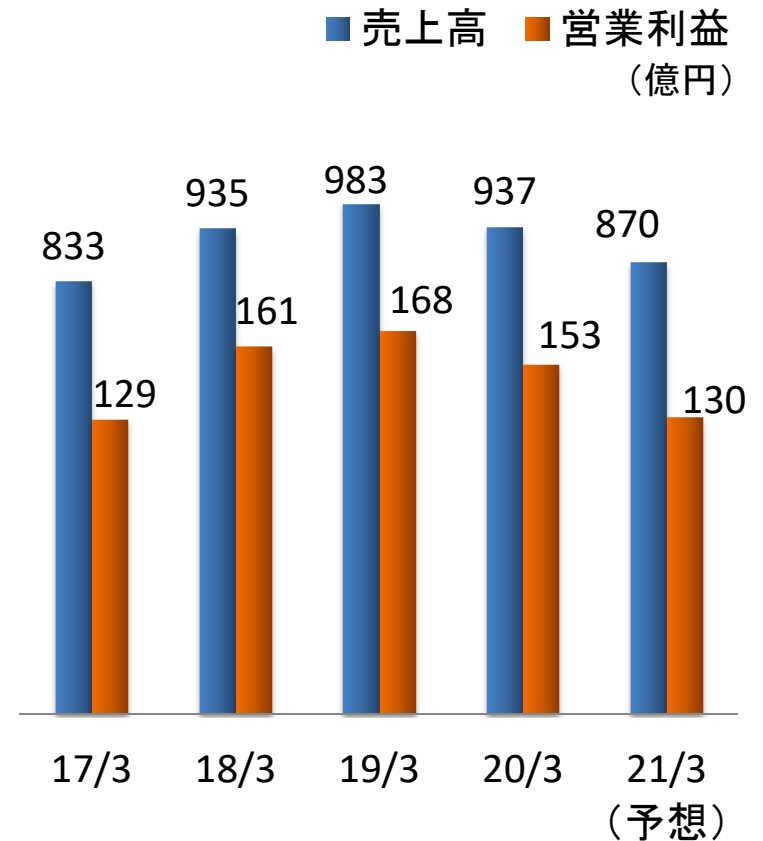
- 販売数量は堅調に推移したものの、原料価格の上昇及び海外市況の下落により減益

塩ビ樹脂

- スプレッド維持に努めたことにより、増益

塩化カルシウム

- 暖冬の影響による販売数量の減少と物流費の増加により、減益



4 補足資料

2. 部門別の状況（特殊品セグメント）

施策

<電子材料事業>

- 顧客の性能向上要求に応える技術開発

<放熱材事業>

- 生産能力増強及び製品ラインナップの拡充

<ICケミカル事業>

- アジア地域における供給体制確立

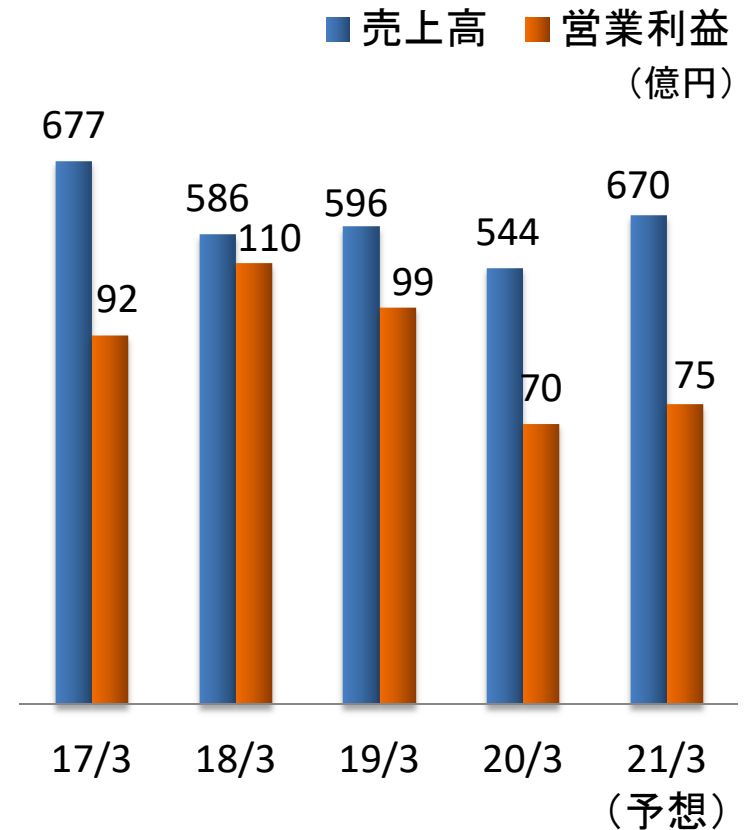
2020年3月期実績

半導体向け多結晶シリコン及び放熱材

- 顧客の在庫調整により販売数量が減少し減益

電子工業用高純度薬品

- 海外向けを中心として販売数量が回復し、前年 同期並み



④ 補足資料

2. 部門別の状況（セメントセグメント）

施策

- エネルギー高効率化
- コンクリート補修・補強事業の拡大
- 資源環境の拡充・新規環境事業の創出

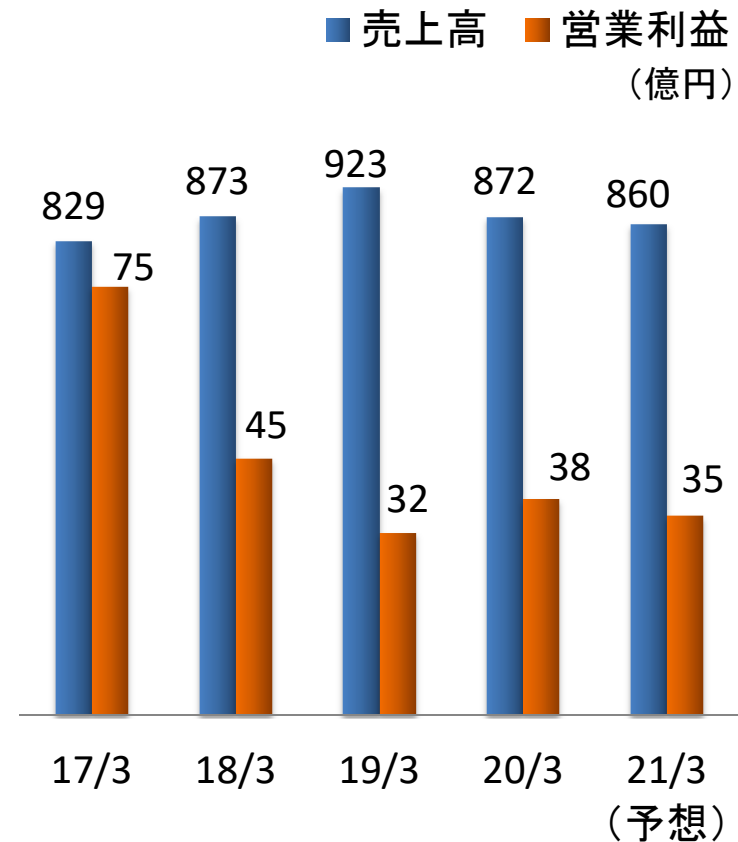
2020年3月期実績

セメント

- 石炭価格の下落による製造コストが低減したものの、販売数量が軟調に推移したこと、及び修繕費等の固定費の増加により、減益

資源リサイクル

- 廃棄物の受入数量が増加したため、増益



④ 補足資料

2. 部門別の状況（ライフアメニティーセグメント）

施策

- 医薬品周辺事業のマーケティング、開発強化
- 製品開発から上市までのパイプラインの強化
- 海外におけるマーケティング・販売力の強化
- 販売パートナーとの緊密な連携による販売数量の増大

2020年3月期実績

プラスチックレンズ関連材料

- メガネレンズ用フォトクロミック材料の販売数量が増加し、増益

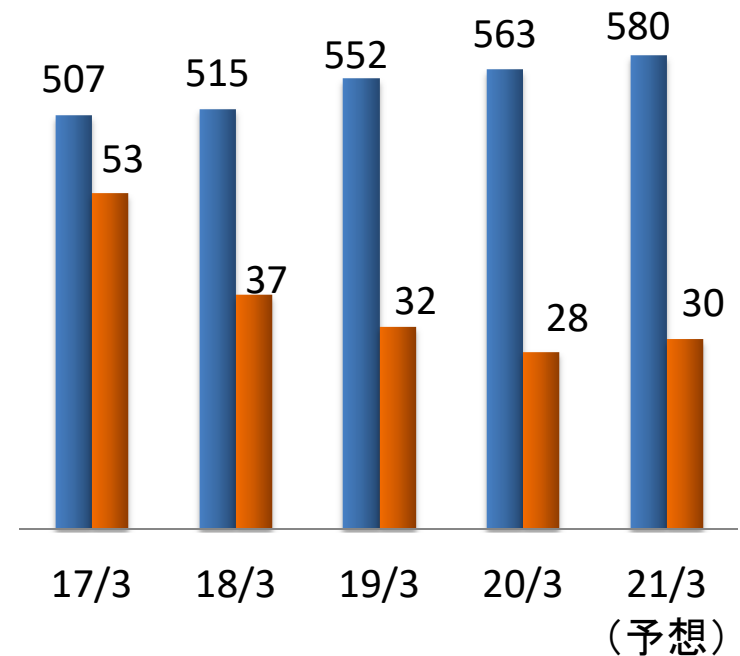
歯科器材

- 海外を中心に販売数量は増加したものの、新製品の上市に伴う広告宣伝費の増加により、減益

医療診断システム

- 臨床検査機器システム案件受注が増加し、増益

■ 売上高 ■ 営業利益
(億円)



3. 連結財務諸表 (要約)

損益計算書

(億円)

	2019年3月期	2020年3月期	差損益	
			金額	%
売上高	3,246	3,160	△85	△3
売上原価	2,266	2,174	+92	+4
販管費	627	643	△16	△3
営業利益	352	342	△9	△3
営業外損益	△18	△14	+4	-
経常利益	334	328	△5	△2
特別損益	46	△49	△95	-
税引前当期純利益	380	279	△101	△27
法人税等	29	69	△39	△132
非支配株主損益	7	10	△3	△41
親会社株主に帰属する 当期純利益	342	199	△143	△42

(注) 差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

3. 連結財務諸表（要約）

貸借対照表

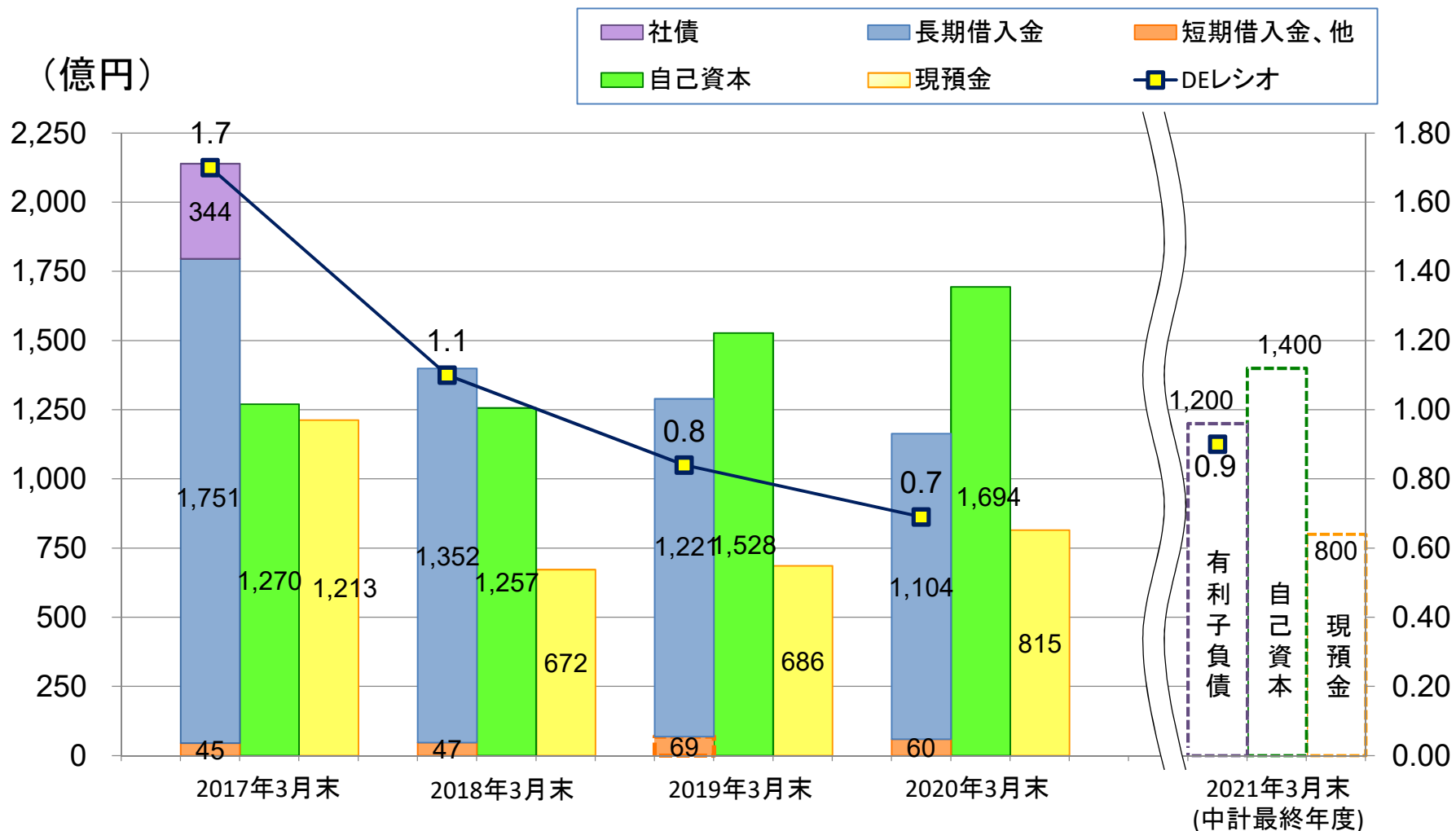
（億円）

	2019年3月末	2020年3月末	増減	
			金額	%
資産合計	3,796	3,834	+38	+1
流動資産	2,029	2,038	+9	+0
有形固定資産	1,161	1,231	+70	+6
無形固定資産	19	16	△3	△16
投資その他の資産	586	547	△38	△7

	2019年3月末	2020年3月末	増減	
			金額	%
負債合計	2,161	2,030	△130	△6
流動負債	932	952	+19	+2
固定負債	1,228	1,077	△150	△12
純資産合計	1,635	1,804	+169	+10

④ 補足資料

4. 有利子負債削減



5. 営業外損益・特別損益・金融収支

連結（前期比）

（億円）

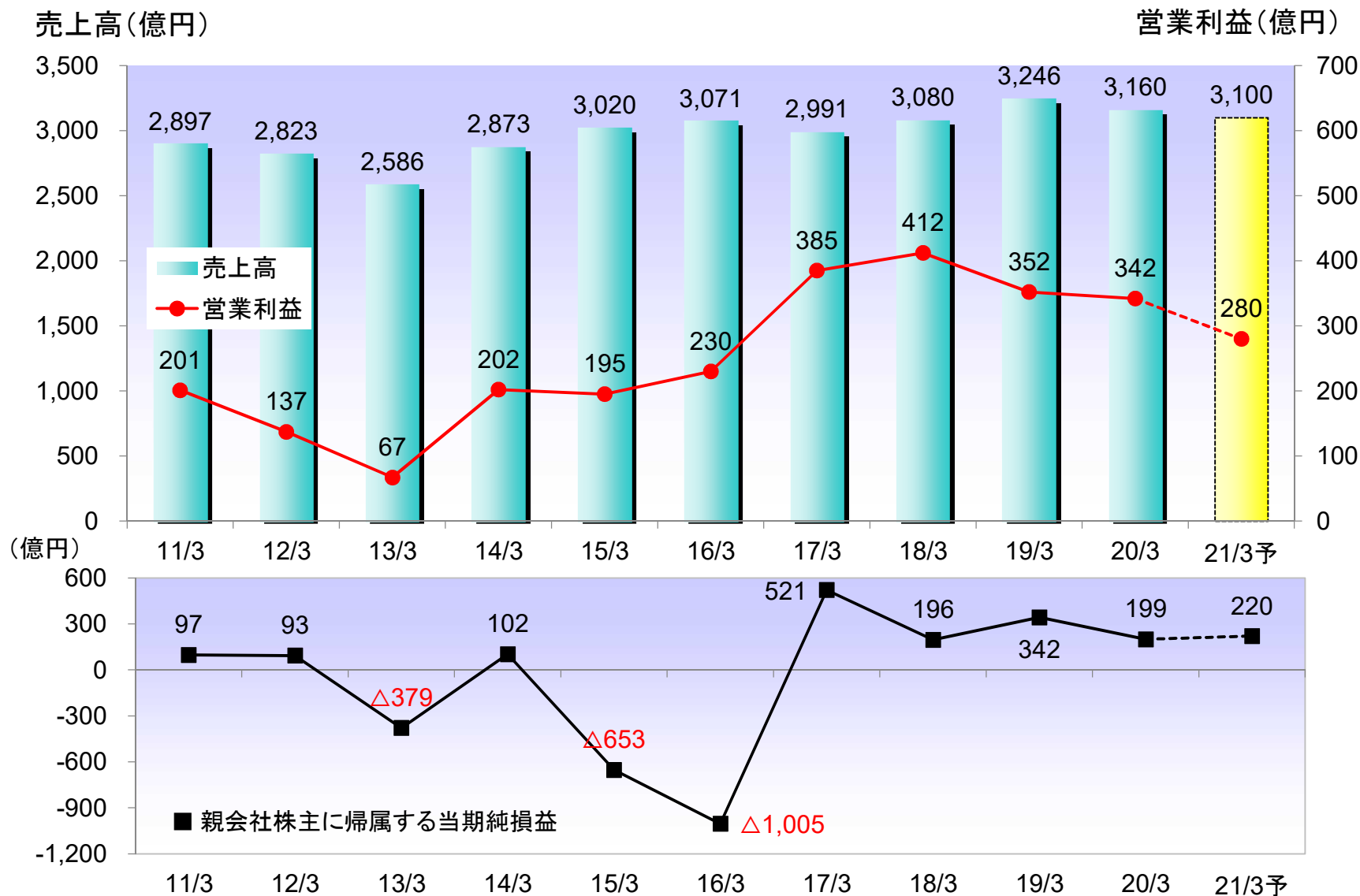
		2019年3月期	2020年3月期	差損益
営業外収益	受取利息・配当金	5	4	△0
	その他	42	36	△6
	計	48	41	△6
営業外費用	支払利息	24	16	+7
	その他	42	38	+3
	計	66	55	+11
営業外損益		△18	△14	+4

特別利益	73	8	△64
特別損失	27	57	△30
特別損益	46	△49	△95

金融収支	△19	△11	+7
------	-----	-----	----

6. 業績推移

通 期

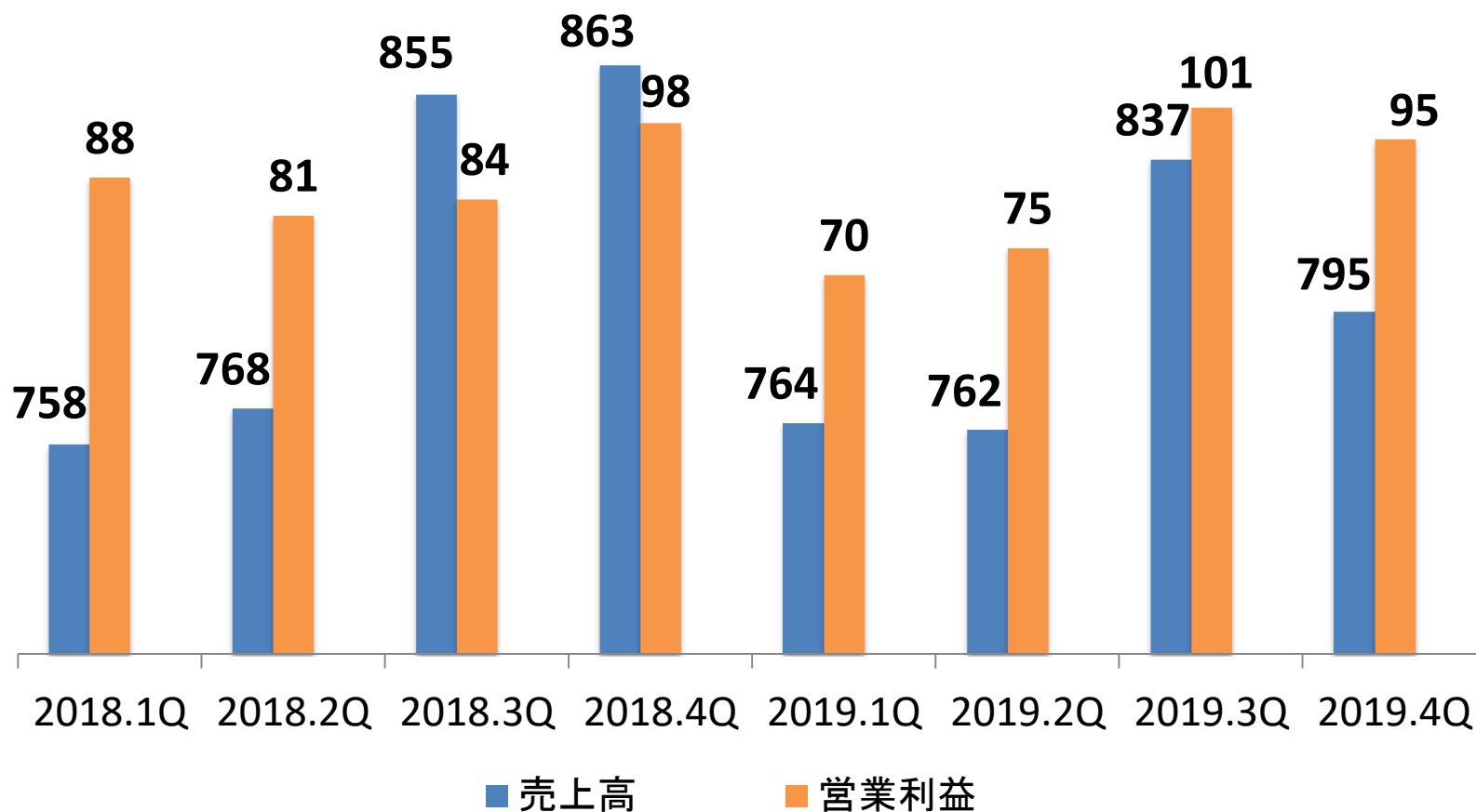


6. 業績推移

連結

四 半 期

(億円)

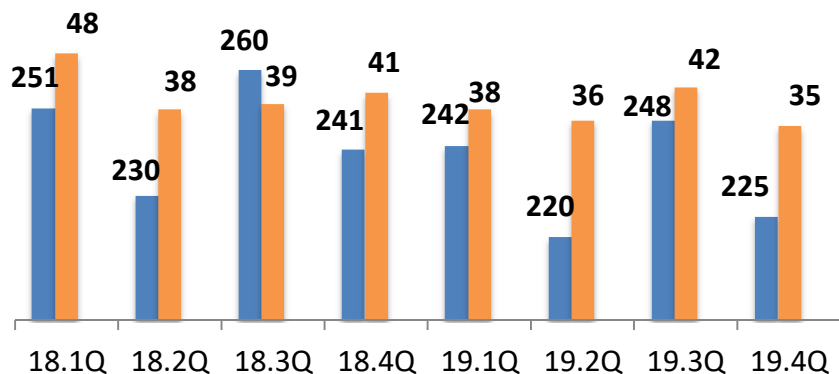


6. 業績推移

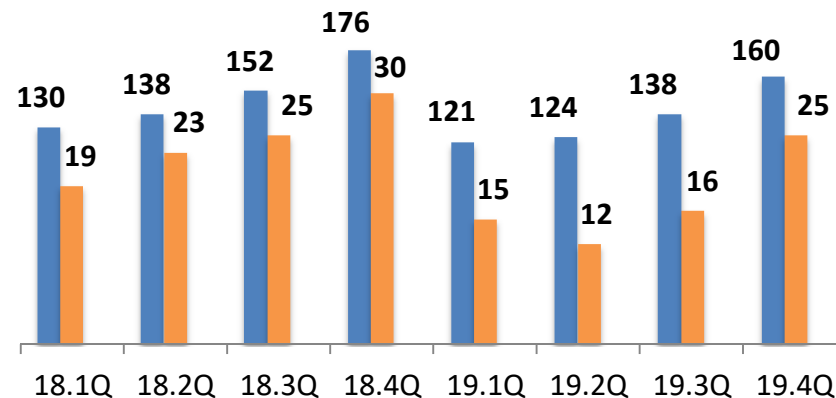
四 半 期

(億円)

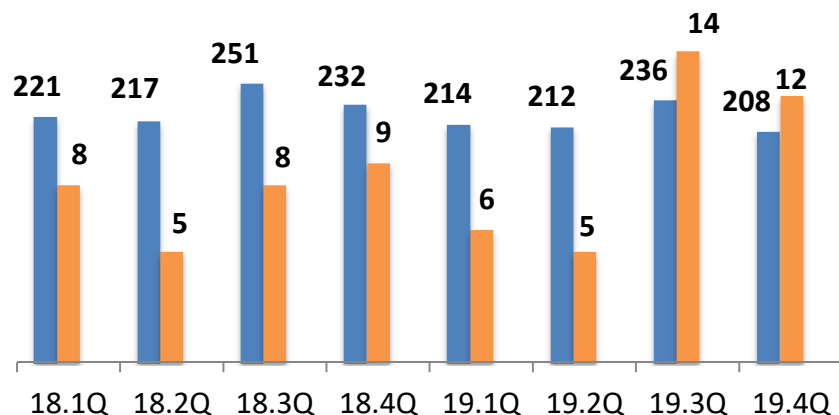
化成品



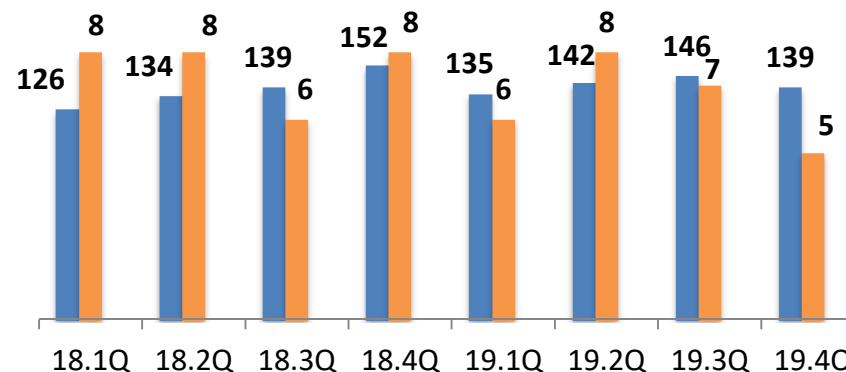
特殊品



セメント



ライフアメニティー



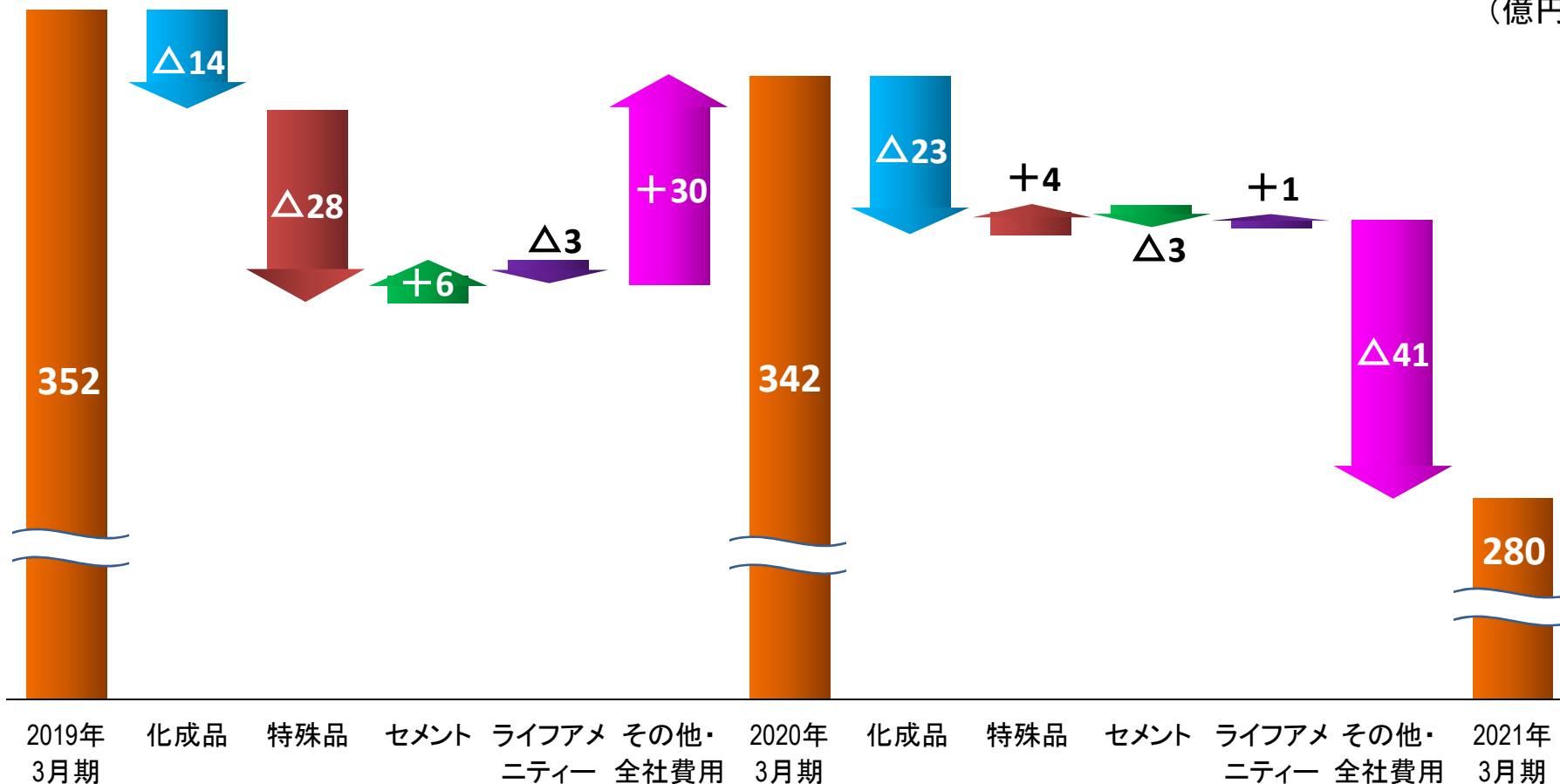
■ 売上高 ■ 営業利益

7. 営業利益増減分析

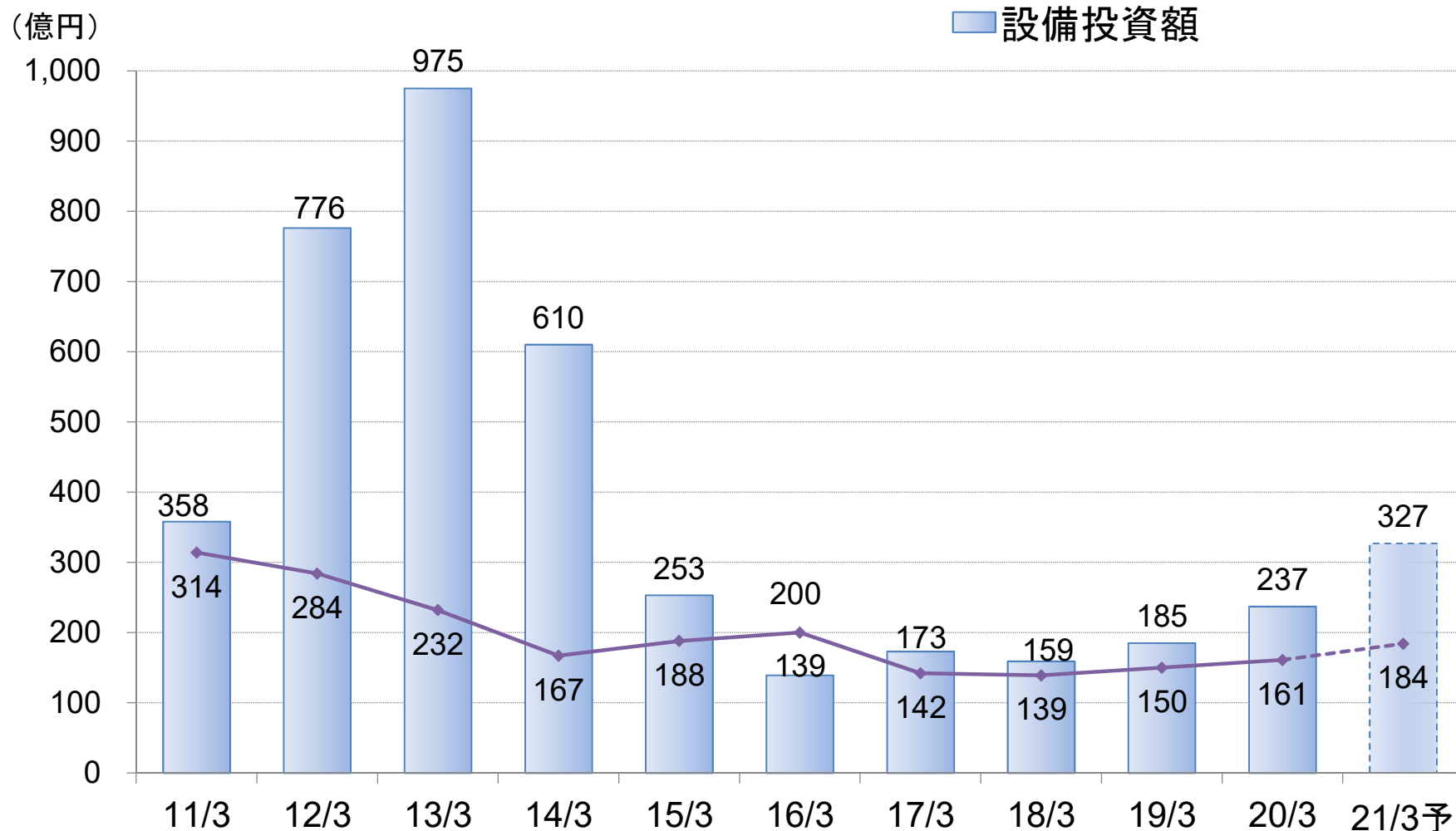
セグメント別

前期実績と今期予想

(億円)



8. 設備投資額・減価償却費推移 連 結

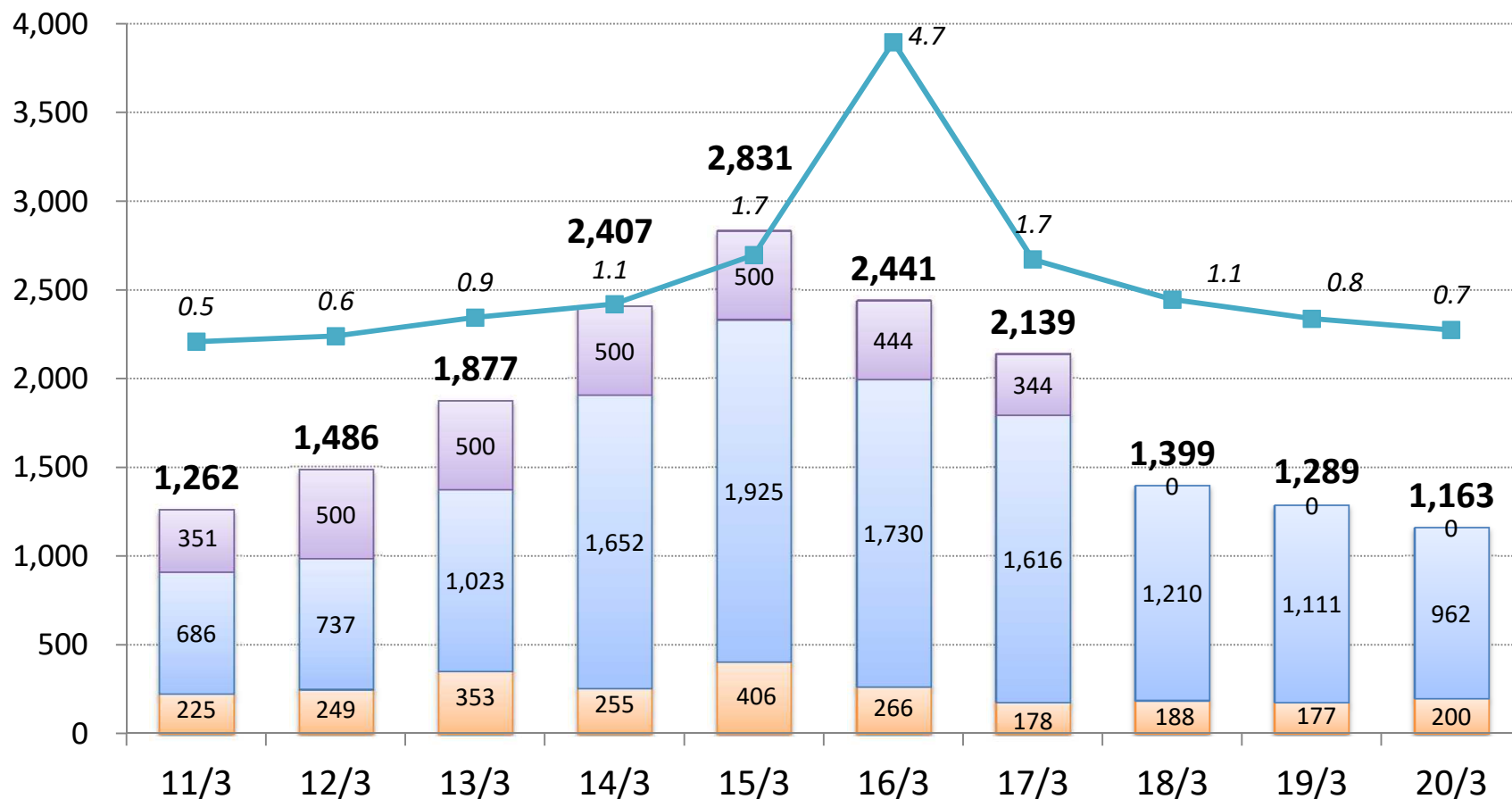


9. 有利子負債残高推移

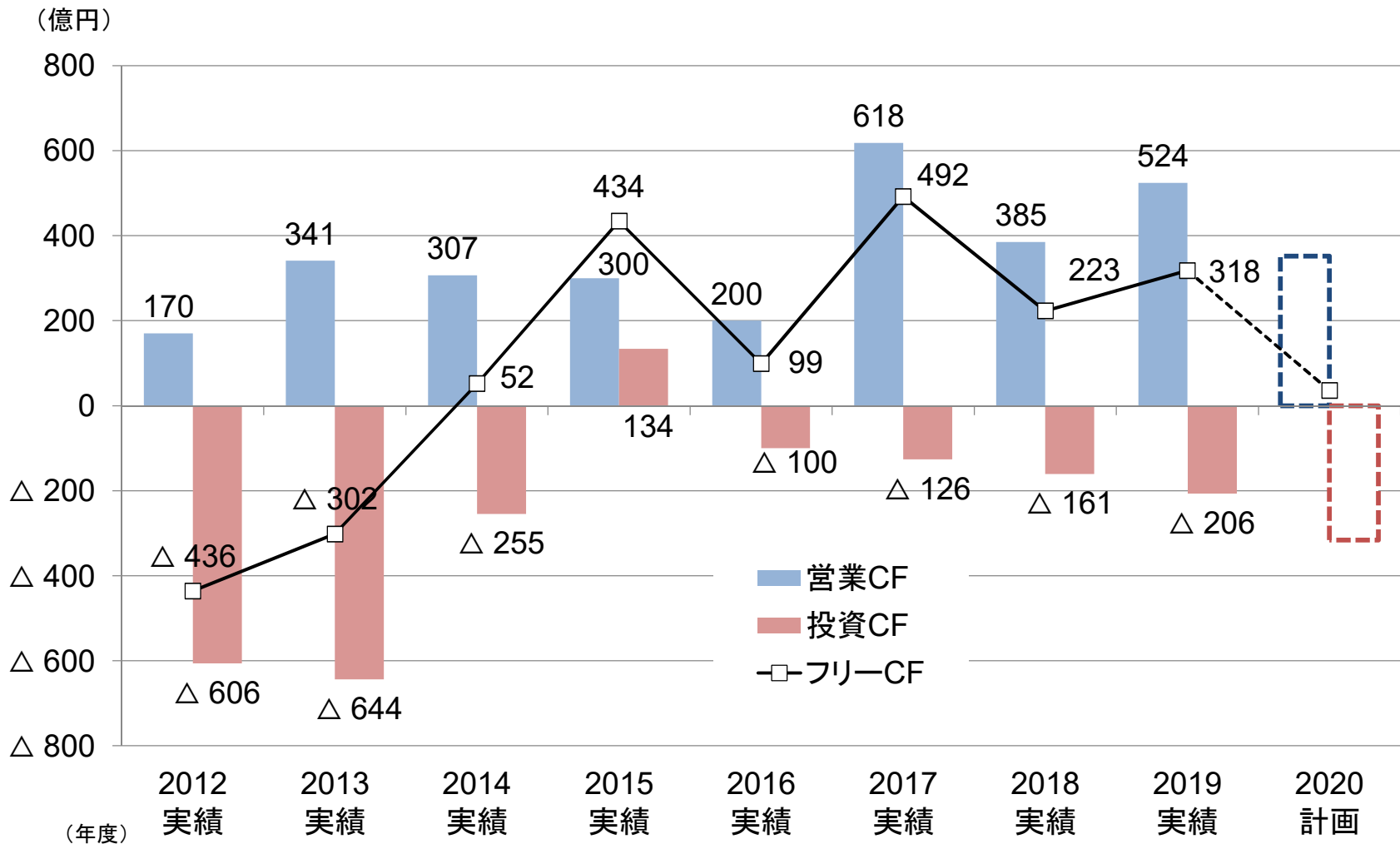
連 結

(億円)

短期借入金(1年内返済長期借入金含む) 長期借入金 社債 D/Eレシオ



10. フリー・キャッシュフロー推移



本資料に関するご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。

本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。

また、当社の許諾なしに掲載情報を使用（複製、改変、頒布、販売、転載、出版等を含む）することはできません。

TOKUYAMA

